

～地域医療連携～



SANDA

R(連携)☆シェアリング 通信



vol. 12 2011. 10

Contents

脳神経外科部長 ご挨拶	1
脳神経外科のご紹介	2・3
脳卒中連携パスの 取り組みのご紹介	4・5
地域医療連携室の 利用状況	6

ご挨拶



脳神経外科部長 柴田 裕次

脳神経外科では救急患者の治療が速やかに行えるよう、24時間体制で診療を行っております。しかし昨今の医師不足から常勤医も減少し、神戸大学からの応援を仰ぎながら救急患者の受け入れに努めておりますが、近隣の医療機関、あるいは救急隊

からの御依頼をお断りしなければならないこともままあります。こういった状況を打開するために、病床の効率的な運用は欠かせない課題となっております。

脳卒中においては地域連携パスが完成し、運用されており、さらに本年度からは在宅を含めた維持期医療機関との連携も始まっております。開始にあたっては病院・診療所の先生方に多大なる御支援、御協力を頂き、誠にありがとうございます。当院脳神経外科の平均在院日数は19日を切っており、これもひとえに地域医療機関の御尽力・御協力のたまものと思っております。

また、地域連携パスを通じて診療・介護に関してだけでなく、互いに必要なことや要望など、多岐にわたる意見交換なども行ってまいりたいと考えております。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。





脳神経外科のご紹介

医師の紹介

部長 柴田 裕次

日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医



部長 横山 雅人

日本脳神経外科学会専門医



診療内容の概要

脳神経外科では、脳卒中や頭部外傷など緊急を要する治療がすみやかに行えるように 24 時間体制で診療にあたっています。そして、患者さんに合わせた最良の治療が行えるよう、従来の外科的治療に加えて血管内治療や放射線治療を取り入れ、積極的に行っています。

【脳卒中センターの設置】

急性期の脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害の治療を総合的に行うために脳卒中センターを設置し、常時救急患者の受け入れ、治療を行っています。特に、脳梗塞に対しては血栓溶解剤 (t-PA) が使用可能となり、予後の良い患者さんが増えていますが、発症後 3 時間以内に薬剤投与を開始する必要があるなど制限も多く、血栓溶解療法を行うためにも、脳卒中発症後はできるだけすみやかに当院に来院していただくことが大切です。突然の頭痛、片麻痺、言語障害、意識障害などの症状は脳卒中の可能性があるので、あやしいと思われた場合には診察や検査も省いて頂いて構いませんので、できるだけ早く来院できるよう、御配慮をお願い致します。

また、平成 20 年 4 月より頸部頸動脈狭窄症に対するステント治療が保険適応となり、当院でも積極的に施行しております。使える機材の種類も増えており、今後ますます発展していく分野と考えられます。



【脳腫瘍治療の対応】

Liniac knife を用いた放射線手術により、脳の部位にかかわらずこれまでより低侵襲に、しかもより効果的に脳腫瘍の治療ができるようになっていきます。対象となるのは、聴神経腫瘍、原発性脳腫瘍術後の再発、転移性脳腫瘍、AVM などですが、特に手術適応のない転移性脳腫瘍に対する適応は広がっており、従来の放射線治療とも組み合わせる場合もあります。

【リハビリテーション】

神経疾患におけるリハビリテーションは、できるだけ早期に始めることが予後の改善に重要であるとされており、当院でも、入院当日から機能を評価し、ベッド上でのリハビリテーションを開始、早期離床できるよう努めております。そして、急性期の治療が終われば、速やかに回復期リハビリテーション病院への転院を進めております。



手術実績

2010年 手術症例統計

脳動脈瘤クリッピング術	9	脳減圧術	0
脳腫瘍摘出術	14	水頭症手術	16
脳内血腫除去術	9	脊髄腫瘍摘出術	2
外傷性頭蓋内出血手術	4	脊椎手術	3
慢性硬膜下血腫手術	54	脳血管内手術	14
頸動脈内膜摘除術	8	神経放射線手術	9
脳血管吻合術（直接・間接）	0	t-PA	2

外来診療体制

科 別	診 察 室	月	火	水	木	金
アップロック 脳神経外科	A-4	柴田裕次	頃末和良	柴田裕次	横山 雅人	柴田裕次

※火曜日の外来診察は予約の方と紹介状をお持ちの方のみ診察可能です。

平成 23 年 9 月 1 日現在



脳卒中連携パスの取り組みのご紹介

北摂三田脳卒中連携シェアリンググループ 事務局
地域医療連携室 地域連携センター長

吉本 勉

近年、病院の機能分化が叫ばれる中、脳卒中疾患患者のQOLの向上、切れ目のないシームレスな医療を提供できるよう、平成20年9月に連携医療機関の協力のもと、北摂三田脳卒中連携シェアリンググループを組織し、脳卒中連携パスを導入しました。導入に際し、医療圏域や連携先医療機関の立地場所などを考慮し、当地域単独ではなく北播磨地域（事務局：西脇市立西脇病院）と合同で運営し、運営の効率化を図るとともに丹波篠山地域など広域的に脳卒中疾患患者に対応できるよう日々取り組んでいます。

特徴としては連携先医療機関が二次医療圏を超え、広範囲であるのが特徴です。パス用紙は患者用と医療者用の二つがあり、患者用はA4判1枚。急性期、回復期、在宅で過ごす維持期ごとに治療期間や回復目標が具体的に記され、本人や家族が流れを理解しやすくしています。医療者用はA3判1枚。従来は病院ごとに異なった動作や歩行能力など自立度の評価基準が、共通の基準で記され、医療スタッフも情報の共通理解が可能となっています。また、医療者用パスをエクセルソフトで作成し、CD媒体での運用により、効率化とデータベース化できるよう工夫しています。平成22年4月には、阪神北エリア、阪神南エリアを含めた4エリアでパス様式を統一化したと同時に維持期・在宅期への拡充のため、評価項目の統一、評価入力者の統一、診療情報提供書の紙ベース併用制などバージョンアップを図りました。さらには、平成23年1月に維持期・在宅期のクリニック等へ参画のお願いをしたところ、数多くの先生方のご賛同を得て、現在、26ヶ所のクリニックの先生方にご参加いただき、地域ネットワーク、地域シェアリングの充実に努めているところです。

今後は、地域連携パスによる数多くのデータの集積、分析を行いつつ、参加医療機関と様々な意見交換を行いながら、地域住民のための脳卒中医療、脳卒中医療の質の向上と地域連携の強化を図っていきたくと考えております。

脳神経外科『脳卒中連携パス』連携先医療機関

【回復期の医療機関】

1. 特定医療法人社団 紀洋会 岡本病院（篠山市）
2. 学校法人兵庫医科大学 兵庫医科大学ささやま医療センター（篠山市）
3. 医療法人社団 関田会 ときわ病院（三木市）
4. 医療法人社団 和敬会 みきやまりハビリテーション病院（三木市）
5. 医療法人社団 敬命会 吉川病院（三木市）
6. 医療法人社団 栄宏会 土井病院（小野市）
7. 医療法人尚和会 宝塚リハビリテーション病院（宝塚市）
8. 医療法人協和会 協立温泉病院（川西市）
9. 医療法人協和会 第二協立病院（川西市）
10. 独立行政法人国立病院機構 兵庫中央病院（三田市）

【維持期・在宅期の医療機関】

（三田市）

1. 秋久医院
2. いなずみ内科・循環器科
3. いまだ内科クリニック
4. おかもと小児科
5. カシオクリニック
6. 木村クリニック
7. 高平診療所
8. 武中内科クリニック
9. 武本内科診療所
10. 富田クリニック
11. 中井医院
12. 中田内科クリニック
13. 中津クリニック
14. 長宗内科医院
15. なんりクリニック
16. 長谷川内科医院
17. 坂東医院
18. ひろせクリニック
19. 前橋内科循環器科医院

20. 松浦内科循環器科医院

21. 南地内科
22. 門中医院
23. 山口内科医院

（篠山市）

1. 小嶋医院
2. たなかホームケアクリニック
3. 山鳥病院



平成22年度 脳卒中連携パス 統計データ

◆運用実績 H22.4.1～H23.3.31 迄急性期を退院された患者で H23.7.1 時点で事務局にパス CD の返却があった数
 三田市民病院 43 例
 22 年度全体の脳卒中件数 170 件 (連携パス適応 25.3%)
 パス返却 (H23.7.1 時点) 27 件 (返却率 62.8%)
 バリエーション
 急性期 0 例 回復期 2 例
 (回復遅延、認知症の影響、介護者不在 1 例 3 件 合併症併発 1 例 1 件)

◆平均在院日数 (連携パス運用症例)
 急性期 33.5 日
 回復期 94.8 日

急性期入院時 患者属性、および転院転帰について

居住区別



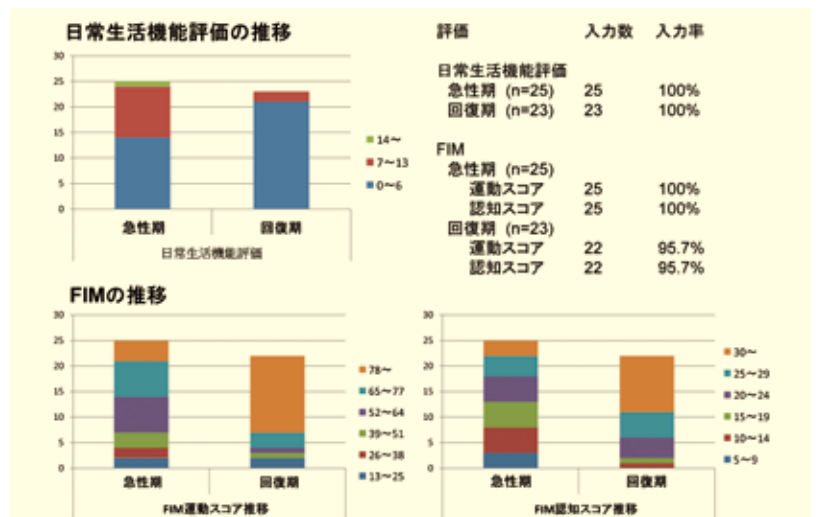
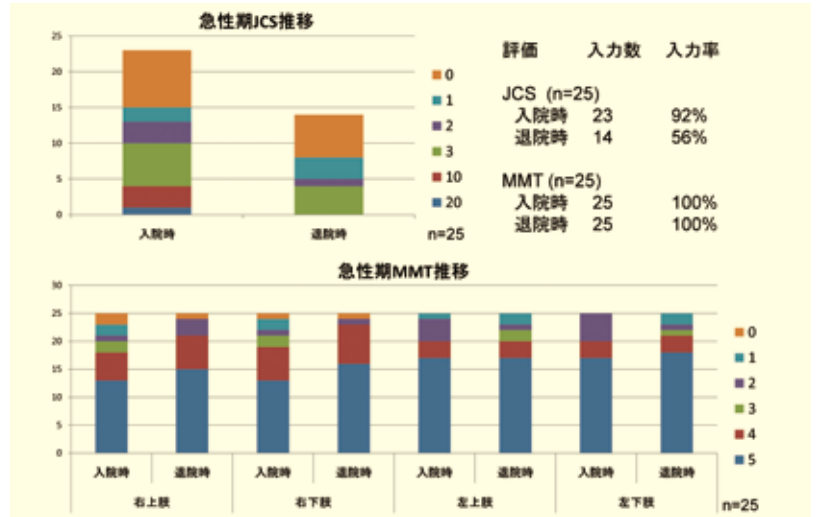
男女比



転院先



転院転帰



病態別症例数



	平均在院日数(日)		在宅復帰率 (n=23)
	急性期 (n=25)	回復期 (n=23)	
ラクナ梗塞	31.4	61.1	100.0%
アテローム血栓性	34.5	177	100.0%
心原性塞栓	36.1	79.8	71.4%
脳出血	32.6	141	85.7%
くも膜下出血	0	0	
計	33.5	94.8	87.0%



地域医療連携室 利用状況



地域医療連携室のご案内

2011 退院支援センター 利用状況

相談内容	3月	4月	5月	6月	7月	8月
在宅	15	22	28	22	22	22
退院	7	7	2	2	6	8
転院施設入所	35	36	41	38	28	36
入院	1	1		1	2	
他法他施策	1	1	1	1	1	
医療費			1			1
その他	144	171	202	108	97	101
合計	203	238	275	172	156	168
継続	372	407	506	768	721	803
総合計	575	645	781	940	877	971

2011 地域連携センター 利用状況

依頼内容	3月	4月	5月	6月	7月	8月
外来受診	214	149	205	201	175	180
入院	19	15	16	11	12	27
CT	28	24	18	19	23	30
MRI	20	20	23	13	21	14
RI	1	1		3	1	1
胃透視					1	1
注腸透視						
心エコー		2	4	1		2
脳波						
トレッドミル	2	2	2	3		3
ホルター心電図						
胃カメラ	13	4	10	15	3	15
腹部エコー	1		2			1
その他検査			4	3	2	2
合計	298	217	284	269	238	276

地域医療連携室からのお知らせ

地域連携センター長 吉本 勉

地域医療機関と連携・協同のもと地域連携パスというツールを活用し、各々の病院・診療所の特性を最大限に生かした治療やリハビリ、在宅生活の支援を行っております。

今後も患者様やその家族が住み慣れた地域で自分らしく生活ができるよう、連携先医療機関はじめ地域の先生方と共に取り組んでまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

地域の先生方からの御感想

当院あるいは今回の通信誌についてのご感想など下記に記入の上、FAXにてご返送いただければ幸いです。

病院・診療所名 _____

TEL _____

FAX _____



三田市民病院情報誌 SANDA R☆シェアリング通信

三田市民病院 地域医療連携室

監修 吉本 勉

電話 079(565)8000 FAX 079(565)8018